

# 1-④-1 中間報告（農林水産業関係）

## 課題

亜熱帯、島しょう条件に立脚した、持続可能な農林水産業の振興のためには、ブランド化の確立や担い手の育成・確保、さとうきび・製糖業の経営の安定化・体質強化、農業生産基盤整備の推進、資源管理型漁業の推進等。

### ○農産物のブランド化の確立

〔生産、販売〕 定時、定量、定品質

〔販売力の強化、流通コスト〕 共同選果、梱包、パッケージ等販売の工夫

〔人づくり〕 物づくりから流通、マネジメントにかかわる人づくり

〔農商工連携の取り組み〕 地場の特産品の活用

### ○担い手の育成・確保

〔農外からの参入〕 受け入れの仕組み

〔観光との連携〕 景観の維持、  
連携の仕組み作り



### ○さとうきび、製糖業の経営の安定化、体質強化

〔さとうきび生産〕 単収の向上等による増産

〔製糖業〕 省エネ・合理化施設への転換等を  
促進しコスト低減



### ○農業生産基盤整備の推進

〔基盤整備〕 未整備地区の推進

〔農業用水利施設〕 耐用年数の長期化等に対応した施設管理

### ○資源管理型漁業の推進

〔つくり育てる漁業、水産物の高付加価値化〕

海ぶどう、ヤイトハタ等の陸上養殖等の推進



# 1-④-2 沖縄の農林水産業を巡る状況

国内外における農林水産業を巡る状況を鑑みつつ、沖縄の有する特性を踏まえ、沖縄らしい農林水産業の振興策を講じる必要。

## 国内外における農林水産業を巡る状況

### 1 農政の新たな展開

—新しい「食料・農業・農村基本計画」の策定(平成22年3月30日閣議決定)等—

【食料自給率の向上・食料の安定供給の確保】 食料自給率を50%に引き上げ、食料供給力の強化、食料安全保障の確立

【農林水産業の持続的な発展】 戸別所得補償制度等の導入

【農山漁村の振興】 農山漁村の6次産業化、都市との交流

### 2 国際情勢を見据えた対応

【WTO農業交渉、EPA・FTA交渉】 関税削減等の農業交渉

【国際競争力の強化】 輸出の促進、コスト削減

### 3 食の安全・消費者の信頼確保

【口蹄疫等への対応】 危機管理対策等の強化

【異常気象対策】 食品表示の厳格化、有機農業の推進

### 4 地球環境問題への対応

【地球温暖化対策】 温室効果ガス削減への貢献

【異常気象対策】 干ばつ被害、ゲリラ豪雨等への対策

## 沖縄の特性

1 亜熱帯性気候等の地域特性を生かした農林水産業の振興

2 観光地という強みを生かした農林水産業の展開

3 島嶼性、遠隔性という地理的条件の克服

4 水資源確保、赤土流出防止など地形的条件の克服

5 ミバエ類、イモゾウムシ等、特殊病害虫防除の必要性



# 1-④-3 沖縄の農林水産業における方向性と具体的な対応策

## 沖縄の農林水産業における方向性

- 亜熱帯性気候・島嶼性等の沖縄の地域特性を生かした農林水産業の振興
- 意欲ある多様な農林水産業者を中心とするやりがいのある農林水産業の振興
- 環境とも調和する持続可能な農林水産業の振興
- 地域資源を活かした活力ある農山漁村づくり



## 具体的な対応策

### 地域特性を活かした農林水産業の振興

- 沖縄の地域特性である亜熱帯気候・島嶼性等を生かした取組に対する支援を講じる必要

⇒さとうきびの単収の向上・株出し面積の拡大、さとうきび生産及び製糖のコスト低減  
⇒ミバエ類、イモゾウムシ等特殊病害虫の根絶・再侵入防止  
⇒ブランド化の推進のため出荷体制の整備・流通の効率化

### やりがいのある農林水産業の振興

- 意欲ある多様な農林水産業者を中心に、やりがいのある農林水産業の取組に対する支援を講じる必要

⇒意欲ある多様な農林水産業者、受託組織等の育成・確保のための研修制度、融資制度の充実等  
⇒新規就農者、農外参入者の受け入れ仕組みの整備  
⇒観光産業との連携の取組

### 持続可能な農林水産業の振興

- 農林水産業者の経営の持続と発展の取組に対する支援を講じる必要  
⇒消費者が求める「品質」、「安心・安全」への取組  
⇒農林水産基盤の整備・保全の取組  
⇒浮き魚礁の整備、陸上養殖の推進等水産資源の回復、水産物の安定供給と高付加価値化等競争力強化  
⇒赤土流出対策等、環境保全型農業の推進

### 活力ある農山漁村づくり

- 雇用を創出し、活力ある農山漁村づくりに向けた対策を講じる必要  
⇒農林水産業・農山漁村の6次産業化  
⇒バイオマス・自然エネルギーを活用した新産業創出  
⇒外国への輸出促進  
⇒生活環境整備による定住化の促進  
⇒ゲリラ豪雨等の災害にも強い農山漁村づくり

# 1-④-4 農林水産業・農山漁村の6次産業化・観光産業との連携

## 現 状

- ・ 沖縄では、他に有力な製造業がないことから、食品産業のウェイトが高く(全製造業に占める食品製造業の従業者数の比率は42%(全国は13%))、農商工連携の取組意欲が高い。
- ・ 最近では、中国、台湾からの観光客が増加するなど、入域観光客数は総じて増加し、農林水産物や食品の販路開拓の機会は拡大。

○ ANAの貨物便のハブ化を活用した東アジア地域への農林水産物・食品の輸出の増加や、新たな販路の拡大、高付加価値など、農商工連携の一層の取組みの拡大が求められている。

## 我が国で数少ない高級紅茶の製造・販売

(株)沖縄ティーファクトリー(うるま市)は、沖縄本島北部の、インドのアッサムと同緯度で、強酸性土壌、強い紫外線がある特性を活かし、地元の農家と連携して、高級紅茶の「べにほまれ」を栽培し、「琉球紅茶」としてブランド化。

金芽「ゴールデンチップ」をふんだんに含んだ最高級品は、100g1万円。伊勢丹のオンリーアイ商品。

香港、台湾への輸出に向け商談中。



「琉球紅茶 月のかほり」



ブレンドティー  
(ハイビスカスティー、琉球チャイ)

## 沖縄県特産品を活用した紅いもタルトの開発・販売

(株)お菓子のポルシェ(読谷村)は、読谷村の村おこしをきっかけに地元の特産品である紅イモを活用した「紅イモタルト」を生産者、農協、村の協力を得て、開発・販売し、沖縄の有力な土産品に成長。

県内5カ所にある製造ラインを見学できる観光工場「お菓子御殿」は、沖縄の有力観光コースに。



観光工場(読谷村)

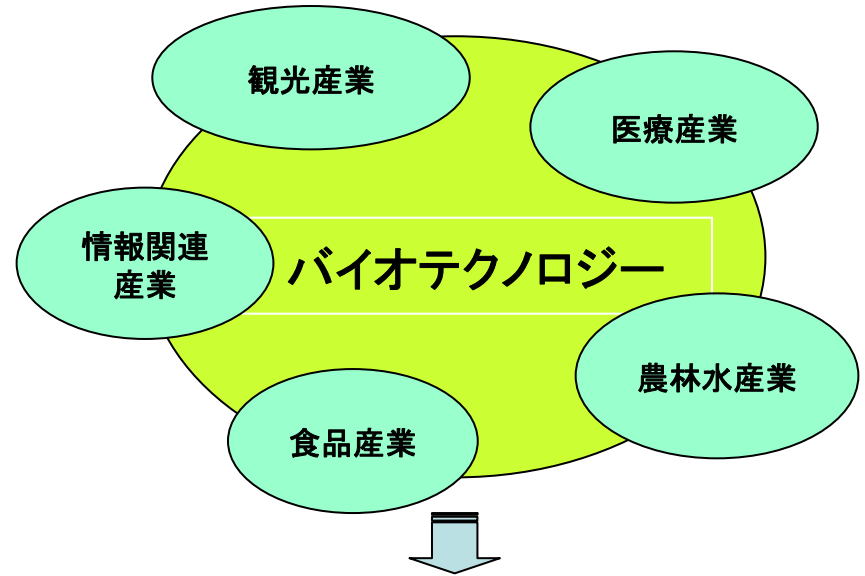
# 1-④-5 沖縄におけるバイオ産業

## バイオテクノロジーの役割と沖縄における可能性

○バイオテクノロジーは、医療、農林水産、食品あるいは情報や観光等幅広い産業分野と関連し、新事業創出に寄与する。

○沖縄におけるバイオ産業は、豊富な亜熱帯生物資源を有効に活用できる観点から、優位性がある分野と言える。

○また、沖縄では、元々、バイオ関連産業（健康食品産業、泡盛等）が盛んである。



県内産業の高度化と新事業の創出

## 沖縄におけるバイオ系ベンチャーの現状

○近年、創薬、微生物、バイオインフォマティクス等の様々な分野のバイオベンチャーが増加傾向

○沖縄におけるバイオ系ベンチャー企業数は2002年で14社だったのが、2010年9月現在で30社となっている。

## バイオ系ベンチャー企業の沖縄県内での活動状況

バイオベンチャー企業数推移

